

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら守恒教室		
○保護者評価実施期間	令和 7年 7月 15日 ～ 令和 7年 8月 15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	令和 7年 7月 15日 ～ 令和 7年 8月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 9月 20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連絡・相談が密にとれ、要望にも柔軟に対応できている。子供達も楽しんで通っている。	子供達が楽しく過ごすことができるよう、毎日違うプログラム(外支出も含め)を考え提供できている。	保護者会・育児相談会等を実施していく。
2	利用者が多くなり、お出掛けやイベントが思うようにできないことがあるが、職員で工夫をしながらイベントやさまざまな体験を継続していく。	児発と放デイに部屋が分かれおり、場合によっては合同・個別で対応できている。※児発・放デイでの区切りだけで療育をしていない面もある。	職員間のコミュニケーションの時間を大切にしていきたい。
3	土日祝に営業しており、利用しやすい環境づくりができています。子供の活動スペースも確保できている。	各部屋でも、動と静との活動によって分けられている。	他施設との連携・情報交換を今後も継続して実施していく。
4	職員全員で、子供に合ったプログラムを話し合い考えていること。(子供の特性に合わせて療育内容を変えている)	1：1等の個別の関りを大切にしている。視画的に見て分かる支援を心掛けている。	保護者も参加できるイベント等を実施していく。
5	心理士・理学療法士・保育士・看護師と各分野の職員が揃っていること。(保育士の経験値が高く、児発に強い)	テキストを読み合わせて学習会を継続できている。今後も隙間時間を見つけて継続していく。	楽しみながらできる(保護者参加買いを含め)療育的イベントを多く取り入れていく。
6	改装して日が浅く設備が新しいこと。2部屋に別れ、各々が適度な広さなので、状況・人数に応じて使い分けられる。	ケース会議への出席を他の職員にも拡大させていきたい。	利用者が増加してきたが、療育の質を落とさないための対応・対策をしっかりと考えておく必要がある。
7	発達障害児の経験は現場保育職員は浅いが、専門的療育への学習・吸収意力は高く向上心を保有している。	HUGプログラムだけでなく、TELや送迎時も含め保護者とのコミュニケーションを密(情報交換も含め)にすることができている。	特支学校レベル(重度ASD・重度知的障害)の児童をケアできる技法、システムについて今後も学習する必要がある。
8	通常級・特別学級在籍レベルの発達障害児の療育には順調に経験値を積み重ねてきているように思う。	職員間で、利用児のその日の状況を話し共有できている。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	心理士・保育士・理学療法士・看護師と揃っているが、児発・放デイの経験が不足している為、常に職員間での振り返りを行っている。	SST技法・ベアトレ・TEACCHプログラム・ABAによる行動分析・レスパイトケア等の専門的アプローチ(保護者との面談の実施も含め)	研修や他施設との連携を密にとっていき、職員全員のスキルの底上げを継続して行っていく。
2	より深く特性について理解・把握を深め個別療育を充実させていきたい。	1名あたりの利用回数(月)に差があり、統一した療育が思うようにできていないように感じる。現在は曜日での固定を勧めており、安定した療育を継続していきたい。	丈夫な段ボール製のパーテーションの作製が急務である。カームダウンコーナー設置学習に集中できる環境づくりの構築も工夫しながら取り組んでいく。
3	児童との関りの中で、男性指導員がいたら遊びや療育の幅が広がのうに感じる。	物理的・時間的・視覚的構造化の学習が継続して必要だと感じる。他事業所との連携や支援法なども積極的に取り組んでいきたい。	一日の流れやルールの統一性をもたせていくこと。
4	発達障害に関する深い理解や将来像の見通しに関する知識・技法書塾が必要である。	開所間もない為、訓練ができていない。(実施予定あり)	事業所内研修・外部研修への参加を積極的に行い、専門性に繋がる支援に今後も継続して取り組んでいく。(他事業所の見学)
5	特化している分野がなく、まだまだ専門性を構築していきたい。特性の理解とその対応(チャレンジ)を継続していくことが大切。		保育園・幼稚園や地域との連携を、今後積極的にとっていき、多方面で活かせるイベント等を実施していきたい。(自施設イベントへの招待も含め)
6	療育センター・行政・他事業所・地域との連携をより深めていく。		